

参考 新エネルギー用語集

- コージェネレーション

ひとつの燃料から電気と熱という二つの異なったエネルギーを同時に発生させ、それを利用することをいう。熱伝供給システムともいう。具体的にはエンジンやガスタービン、燃料電池を運転して、電力または機械的仕事を発生させ利用するとともに、発生する熱を回収し熱エネルギーとして冷暖房や給湯などを行う。電気需要と熱需要の適切な組み合わせが可能な場合には総合エネルギー効率は70～80%に達し、そのエネルギー利用効率の高さ、すなわち省エネルギー性が注目されている。

- BDF(Bio Diesel Fuel)

植物性食用油の廃油を精製してできたディーゼル燃料などのこと。欧米諸国では次代を担うエネルギーとして注目されている。この燃料は、硫黄酸化物の発生はゼロ、黒煙の発生も軽油の1/3以下というクリーンなエネルギーである。実際に東京都の自由が丘では、このバイオディーゼルの燃料を使ったエコロジーバスが誕生し、試験運行されている。

- CNG(Compressed Natural Gas)

圧縮天然ガスのこと。一般に天然ガスは石炭、石油系燃料に比べ単位発熱量あたりの二酸化炭素排出量が少ない。また、硫黄やその他の不純物を含まないため硫黄酸化物等を発生せず排気がクリーンである。天然ガス自動車には、圧縮天然ガス(CNG)自動車と液化天然ガス(LNG)自動車があるが、利便性の点から圧縮天然ガス自動車が普及している。

- COP3(The 3rd Session of the Conference of the Parties to the United Nations Framework Convention on Climate Change)

1997年12月京都で開催された「第3回気候変動枠組条約締結国会議」のこと。人間活動によって急増する温暖化ガス、特に二酸化炭素の排出量増大に伴う気候変動への対応を考える会議。採択された議定書では、先進各国の温暖化ガス排出削減の数値目標が決定されるとともに、途上国についてもクリーン・ディベロプメント・メカニズムなどを通じて一定の参加を促すことが合意された。

- LPG(Liquefied Petroleum Gas)

液化石油ガスのこと。石油工業で副生するプロパン、ブタンを主とした数種類の炭化水素の混合物である。常温常圧では気体であるが、天然ガスと比較して圧力を加えると容易に液体になり輸送、貯蔵に適している。一般家庭用、工業用に広く用いられている。ガスタービンや燃料電池などによるコージェネレーションの燃料とすることもできる。

- PV

電圧抑制機能を持った太陽光発電システムのこと。太陽光発電システムの普及に伴い地域によって集中して連系される状態が起こることが予想される。このような高密度連系の状態では、逆潮流により配電線の電圧が不安定になる可能性がある。電圧を適正な範囲に維持するために、太陽光発電システムは出力を制御する必要がある。

- RDF(Refuse Derived Fuel)

ごみ固形燃料のこと。分別収集される都市ごみや産業廃棄物の可燃物を破碎し、固化機でペレット状に圧縮、成形し固形燃料としたもの。RDFはごみを燃料に変えることで、廃棄物をエネルギーとして有効に活用することができ、炭酸ガスの排出抑制のための一策として、またごみ問題解決の手段としても注目されている。